

比企歴史研究において重要な観音寺遺跡

倉上 洋行

Historic remains of "Kannonji-Iseki" in historical studies on Hiki district

Hiroyuki KURAKAMI

Abstract

There are many important historic landmarks and cultural assets of Japanese history around this school (Musashigaoka College).

This report provides new insight in the history of "Hiki" through studies about remains of "Kannonji-Iseki" and, shows interaction between the remains and Tokugawa shogunate.

英語キーワード：historic landmarks, cultural assets, remains, Tokugawa shogunate

はじめに

武蔵松山城（埼玉県比企郡吉見町）周辺には、日本史において重要な史跡・文化財が広範囲に分布している。本稿では、所在が私有地にあるため、これまで一般にほとんど認知されていなかった「観音寺遺跡群（東松山市松本町）」について、その土地所有者に対する本格的な取材を実施し、周辺史跡との関連を含めて、比企地区の歴史研究における徳川将軍家をめぐる新たな知見を得ることができた。

I. 観音寺遺跡群の調査

本研究の対象である「観音寺遺跡群」は私有地に存在するため、その全貌を知るための調査研究は困難であった。しかしながら、本調査は、地域活性化のための観光政策に対して強い関心を持っている土地所有者、及び、その関係者に対して、調査へのご理解をいただき、土地所有者の一部個人情報をご非公開とする条件で、取材に対する協力を得て実施した。

II. 観音寺遺跡群と松山城主上田家家臣、及び、徳川家家臣

観音寺跡地所有者であるF家、及び、跡地の一部にてカフェレストランP店を営んでいる、観音寺の事情に詳しいK氏（土地所有者F家の娘婿）に対する取材、及び、遺跡調査により、以下の点が判明した。

- ①観音寺遺跡群の土地所有者F家は松山城主上田氏家臣『福島氏』の後裔であると伝わっている。
- ②K氏によると、観音寺遺跡群の土地所有者F家は家系図より徳川家康家臣『福島正則』の後裔であるという。

「福島正則」は「関ヶ原の戦い」の東軍において、徳川家康の善戦を支援したことで有名な戦国武将である。時代は明らかでないが、過去に「観音寺」の跡取りが途絶えた頃、土地所有者の先祖が寺の運営を支援するために同寺に住むようになったという。

徳川家康家臣『福島正則』と松山城主上田氏家臣『福島氏』との関連については現時点では十分な情報が得られていないものの、今後の調査次第では、室町時代から安土桃山時代を経て、江戸時代に至る長期に渡る重大な知見が得られる可能性がある。

観音寺遺跡群は、不動尊（祠様の建築物）【写

比企歴史研究において重要な観音寺遺跡

真1】や、観音寺池【写真2】のほか、後述する墓石がある。観音寺池は、現在の「観音寺跡」から比較的離れた場所にあり、F家によると、観音寺遺跡群の総面積はおよそ3,000坪であるという。

同遺跡群が西端の「墓石」から東端の「観音寺池」まで分布している様子を【図1】に示した。図1から「観音寺」は広大な規模を誇っていたことが推察される。

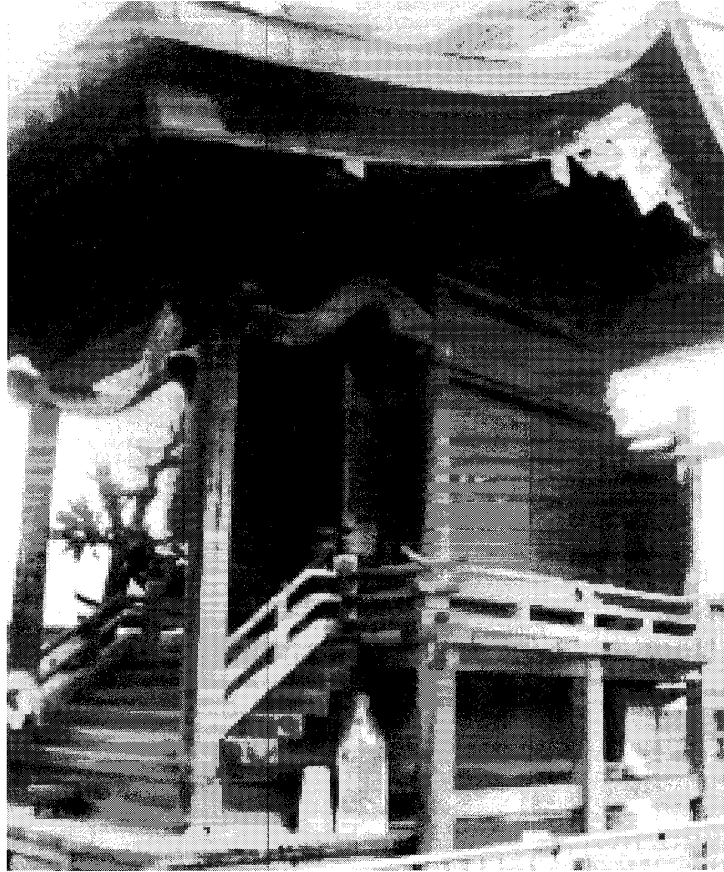


写真1…観音寺遺跡群の不動尊



写真2…観音寺池

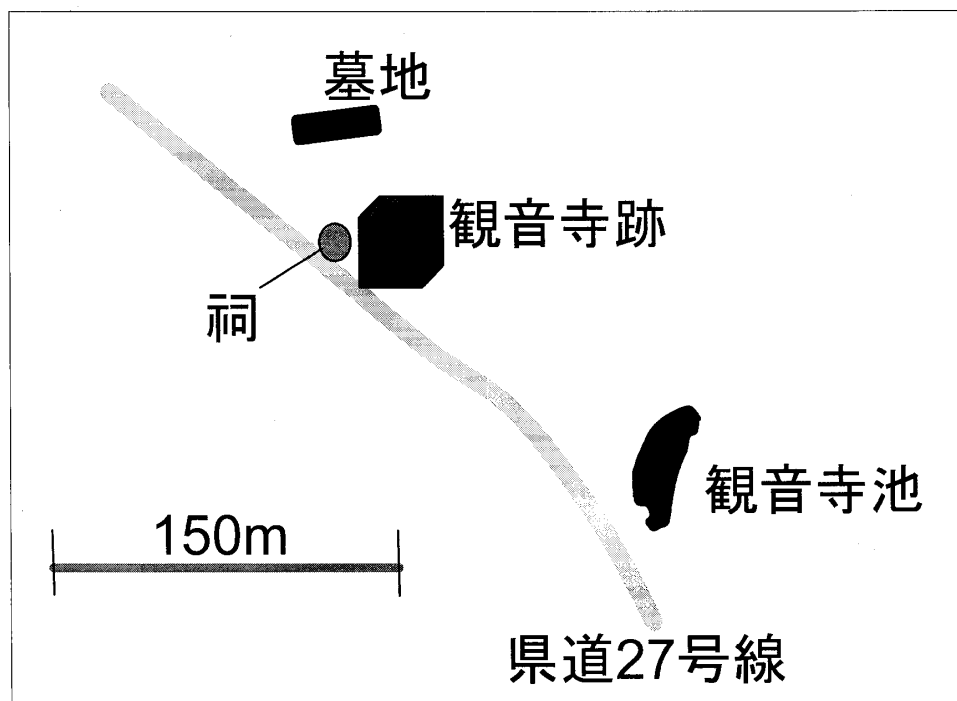


図1：観音寺遺跡群（観音寺跡、不動尊、墓石、観音寺池）の分布図

Ⅲ. 観音寺遺跡群と徳川将軍家ゆかりの鷹狩り場 関連施設との関連性

観音寺跡地に住んでいるK氏（土地所有者F家の娘婿）に対する取材により、以下の点が判明した。

- ①徳川家は、「仙波東照宮（埼玉県川越市）」から観音寺を経由して「太田の東照宮（群馬県太田市）」へ出かけていたことが伝わっている。徳川将軍家ゆかりの鷹狩り場跡は、観音寺周辺、及び、近隣の地区に広範囲に分布していたと伝わっている。
- ②「仙波東照宮」は徳川家三代将軍「家光」ゆかりの地であるが、徳川将軍家が鷹狩り場へ行く際に観音寺を利用していたことが、観音寺跡から見つかった資料に記録されている。

この「太田の東照宮」は『徳川氏』発祥の地であると伝わっている群馬県太田市世良田町にある神社「世良田東照宮（せらだとうしょうぐう）」¹⁾のことを指しているものと推察され、この神社は新田氏発祥の地にも近いことから、今後の調査次第では「徳川家康が鎌倉時代後期の武将新田義貞の後裔であることを自称し、家系図を粉飾していたとする定説²⁾」に関して何らかの手掛かりが得られる可能性がある。

徳川将軍家の鷹狩り場は、埼玉県内を見るだけでも、広範囲にわたり分布している。このうち、東松山市の「観音寺遺跡群」がどのような位置づけを占めていたかの詳細は明らかでない。

聞き込み調査、及び、観音寺資料を基に、「観音寺遺跡群」から比較的近距离にある「徳川将軍家の鷹狩り場」について、位置関係を【図2】に示した。

図2の「越ヶ谷御殿」は御殿跡に現存する資料によると江戸城火災の時に、改築のために取り壊されて、江戸城内に移築されたが、この御殿も徳川将軍家の鷹狩り場付近の宿泊施設として利用されていたようである³⁾。御殿跡の現況を【写真3】に示した。

また、鷹狩り場とは直接関係ないが、徳川家康と深い関わりがある「しょうてんざんかんぎいん聖天山歆喜院（埼玉県熊谷市）」は、同縁起によると「1604年徳川家康は、伊奈備前守忠次に聖天堂造営を命じ、50石の朱印を付す。」となっている。さらなる検証が必要であるが、徳川家は川越（仙波東照宮）から太田（世良田東照宮）へ向かうときばかりでなく、川越から熊谷（聖天山）へ向かう途中に、東松山の観音寺をその中継点として利用していた可能性も考えられる【図3】。

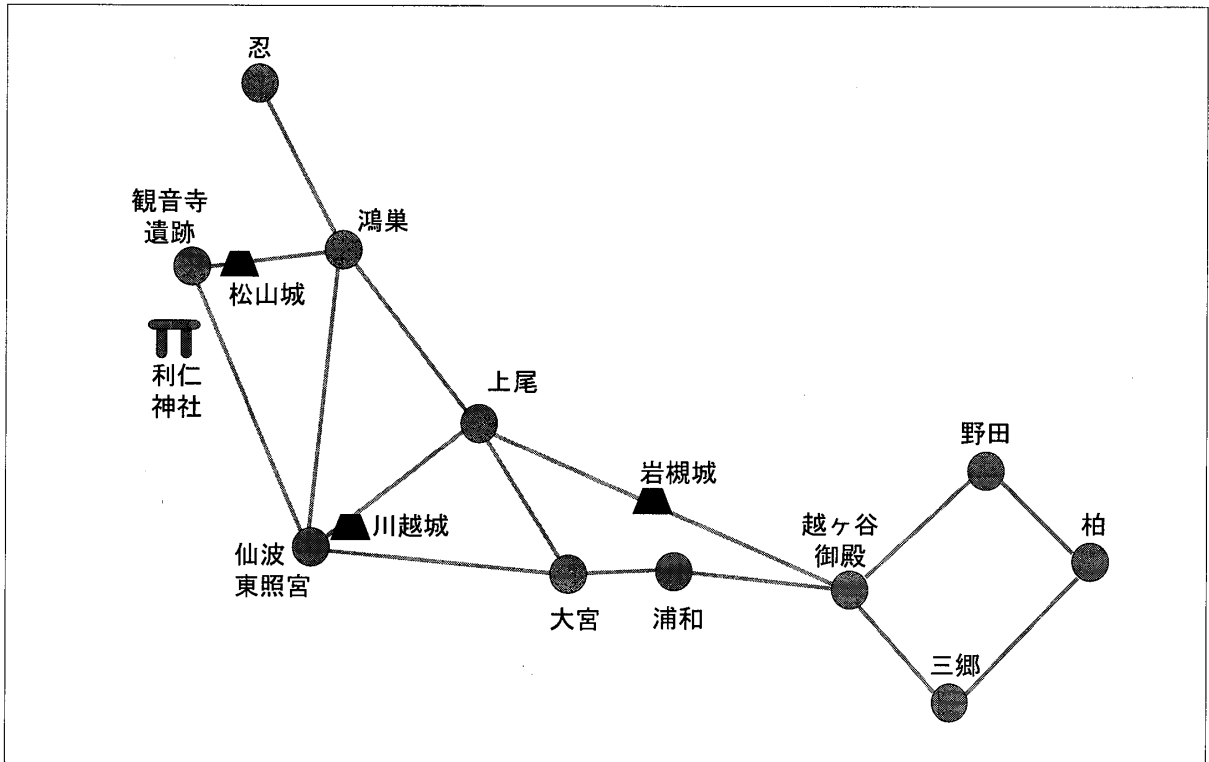


図2：「観音寺」と「利仁神社」、及び、鷹場関連施設の分布概略図

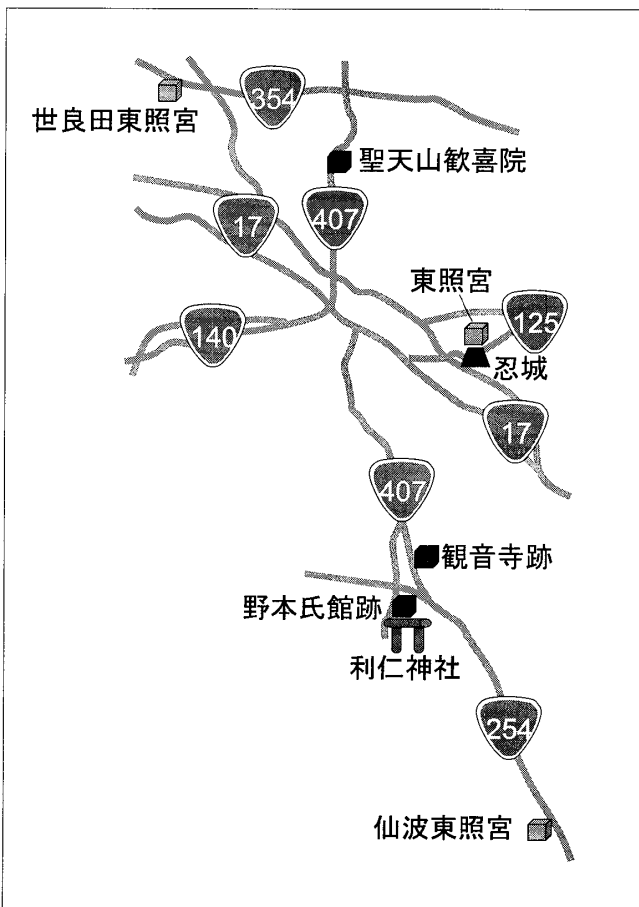


図3：徳川家ゆかりの地と中継点としての観音寺



写真3：越ヶ谷御殿跡

IV. 「観音寺遺跡群」において発見された墓石と 比企地方の「宝篋印塔」^{ほうきょういんとう}との比較

今回の遺跡調査で、「観音寺跡」に隣接する墓地において鎌倉時代に盛んに建造された「宝篋印塔」の形態に類似した墓石が発見された。発見者の1人K氏によると、当該墓地はかつて「観音寺」が運営していたものであり、何故この地に当該墓石が残っているのかは明らかでないという。周辺の既知の「宝篋印塔」と比較して、当該墓石は一部毀損しているものの、保存状態は良好である【写真4】

比企周辺の「宝篋印塔」の中には国指定の重要な文化財となっているものもあり、歴史研究上、重要な資料である。しかしながら、K氏らが見つけた墓石に関する文書が発見されていないので、現時点では「観音寺」における、その位置付けを解明することは困難であり、さらなる検証が必要である。

V. 藤原利仁^{ふじわらのとしひと}ゆかりの「野本氏館跡」と「利仁神社」

埼玉県東松山市は1954年7月1日に比企郡の松山町、大岡村、唐子村、高坂村、野本村が合併して誕生した。このうち、当時の野本村に「野本氏館跡」と「利仁神社」が位置していた。「利仁神社」の現在地を【図2】及び【図3】に示した。

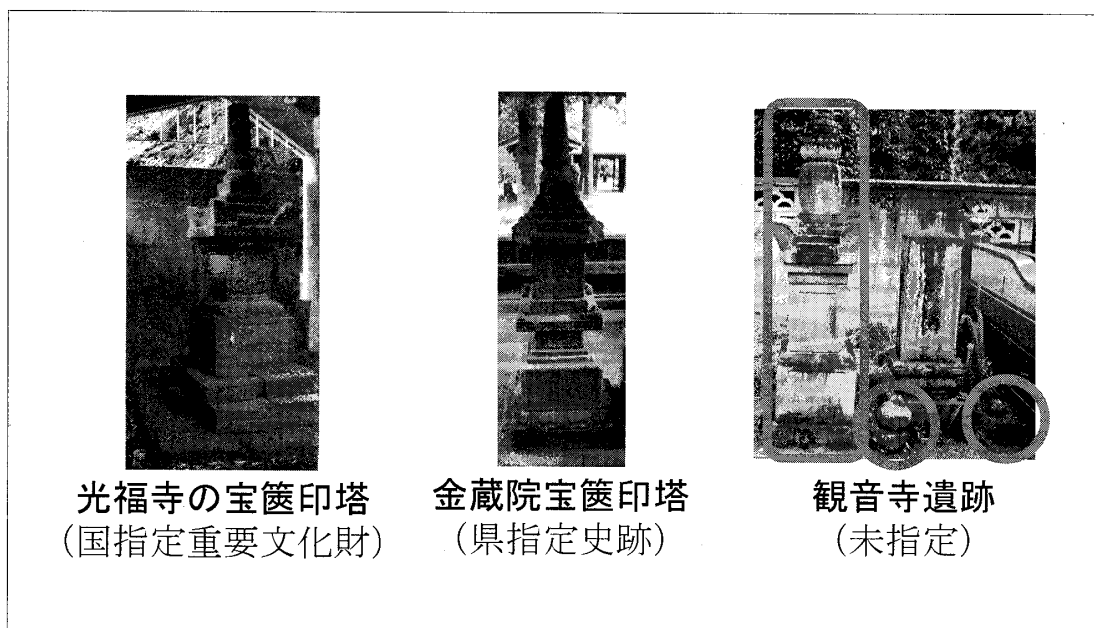
「野本氏館跡」は『藤原利仁』の裔「野本氏」が居住していた地であり、現在、この地には「無量寿寺」が位置する。周辺の現況を【写真5～6】に示す。

「利仁神社」は『藤原利仁』ゆかりの地である。『藤原利仁』の子『叙用』は「齋宮頭」という官職にあった。「齋宮頭」とは伊勢神宮に奉仕する未婚の皇女の世話をする役所の長官であり⁴⁾、『齋宮頭叙用』の裔は神道における由緒ある家系であるといえる。『叙用』の流れを汲む裔は、齋藤家、河合家、後藤家などがある。

VI. 『齋宮頭叙用』の裔『齋藤福』と『徳川家光』

徳川幕府が15代続いたのは、その運営基盤が強固であったからに他ならない。特に、三代将軍『徳川家光』によるところが大きいと思われる。『徳川家光』は当初、父『秀忠』から将軍に相応しくないとされていたが、「春日局」として有名な『齋藤福』^{かすかのつぼね}の取り計らいによって、将軍就任に対する祖父『家康』の同意を引き出すことに成功した。

したがって、江戸幕府繁栄の舞台裏には、「春日局」の働きかけがあり、その先祖にあたる『齋宮頭叙用』の存在は無視できない。今後の、比企地区の観光政策を考える上で、徳川幕府との関連を多面的に考えていくことは意義深いといえる。



光福寺の宝篋印塔
(国指定重要文化財)

金蔵院宝篋印塔
(県指定史跡)

観音寺遺跡
(未指定)

写真4：「宝篋印塔」^{ほうきょういんとう}と「観音寺遺跡群」の墓石



写真5：「野本氏館跡」



写真6：利仁神社

おわりに

本稿に関わる調査を通して、「観音寺遺跡群」が周辺の史跡へ至る中継点として利用されている可能性が示され【図3】、比企地区の史跡・文化財に新たな知見が加わった。

特に、今回の調査では、藤原利仁が活躍した平安時代から、宝篋印塔が盛んに造られた鎌倉時代、そして、松山城主上田家が栄えた室町時代から安土桃山時代、さらに、徳川将軍家が栄えた江戸時代へと長期に渡る歴史的な知見が得られた。

これらの知見は比企地区の歴史を再考する上で重要である。今回得られた新知見は、今後の、地域に根ざした観光政策を考える上で役立てていきたい。

謝辞

本研究を遂行するにあたって、取材にご協力いただいた「観音寺遺跡群」土地所有者のF家の皆さん、及び、K氏に対して、心より深謝致します。

参考文献

- 1) 群馬県高等学校教育研究会歴史部会：歴史散歩⑩群馬県の歴史散歩、山川出版社、東京、2005.
- 2) 河合敦：スーパービジュアル版 早わかり日本史、日本実業出版社、東京、2005.
- 3) 埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会：歴史散歩⑩埼玉県の歴史散歩、山川出版社、東京、2005.
- 4) 播磨屋：姓氏と家紋 斎藤氏、日本の姓氏 Best10、家紋World、http://www.harimaya.com/o_kamon1/seisi/best10/saitou.html、2008年1月16日アクセス.